

## 9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



## 〈目標9〉産業・技術革新・社会基盤

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

## 目標9の主な内容

- すべての人に豊かさをもたらす経済発展のため、質の高い、持続可能でレジリエントなインフラを提供する。
- 資源利用効率を高め、クリーン技術や環境に配慮した技術・産業プロセスの導入を進める。
- イノベーションを促進したり、研究開発に従事する人の数を増やし、科学研究を振興する。
- 開発途上国で、情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させる。

## 問題の背景

- 開発途上地域では、約26億人が安定的な電力供給を受けていません。
- 世界で25億人が基本的な衛生施設を利用できていないほか、水資源にアクセスできない人々もほぼ8億人近くにのぼります。
- 低所得国をはじめ、多くのアフリカ諸国では、インフラの未整備により、企業の生産性が約40%損なわれています。
- 開発途上国に農産物加工設備が広がり、現在の30%程の加工率が上昇すれば、アグリビジネス発展の可能性が高まります。

## レジリエンスとは

レジリエンス(Resilience)とは、「復元力」「回復力」や「しなやかな強さ」「逆境に強い力(逆境力)」などを意味する言葉です。

日本では「強靱性」とも訳されています。



しなやかな強さを持つ竹は、レジリエンスの象徴ともいえる

## 日本の状況

- 大学生全体に占める理工系学部学生の割合は1997年度ごろから減少を続け、2013年度には21.6%にまで低下しています。
- 従業員規模が小さい企業ほど技術・技能人材の不足感が強い傾向がみられます。
- 社会インフラの大部分が地方公共団体により管理されており、その多くで老朽化が進んでいます。
- 政府は、環境・エネルギー技術の革新による「グリーンイノベーション」を促進し「安定的なエネルギー供給と低炭素化の実現」「エネルギー利用の効率化・スマート化」「社会インフラのグリーン化」の研究開発を推進しています。

## グリーンインフラ



湿地は洪水調整の遊水地としても機能し、渡り鳥の貴重な生息地にもなる

自然環境の中のさまざまな機能(生物の生息の場の提供、雨水の吸収、気温上昇の制御など)を活用して、魅力ある国土や地域づくりを進める「グリーンインフラ」が国内外で注目を集めています。生態系の機能をインフラに活かせば、景観や生物多様性の保全につながるばかりでなく、維持管理費も抑えられるため、人口減少社会を見据えた上でも有効です。



## 地域からのヒント

環境省は「自然の恵みを活用すること」、「自然の脅威を学ぶこと」、「森・里・川・海のつながりを強めること」の3つを基本方針に「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興」を進めています。地域の人たちとのワークショップ等を通じて、沿岸地域を歩きながら自然や歴史文化などを楽しむ「みちのく潮風トレイル」や、「復興エコツーリズム」など7つのプロジェクトが展開されています。



(環境省「みちのく潮風トレイル」ホームページより)